様式１号（第２の１の(1)関係）

記入例

 贈与税の納税猶予に関する適格者証明書

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  　 証　　　明　　　願提出日 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　平成○○年○○月○○日 小布施町農業委員会長　殿 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　農地等の受贈者氏名　　小布施　次郎　印 　下記の事実に基づき、贈与者及び私が租税特別措置法施行令第40条の６第１項（各号列 記の部分を除く。）及び第５項各号に該当することを証明願います。 　なお、贈与者は租税特別措置法施行令第40条の６第１項各号に該当する事実はありませ贈与する方 ん。 １．農地等の贈与者 |  |
|  |  住所 | 上高井郡小布施町大字○○××番地 | 氏名 | 小布施　太郎 | 職業 | 農業 |  |
|  農業を営 んでいた 期　　間 |  　　自昭和○年○月○○年 　 至昭和○年○月贈与される方 |  贈与者が農 業経営者で ない場合 |  農業経営者の 氏名 |  |
|  農業経営者と 贈与者との同 居・別居の別 |  　　同居・別居 |
|  ２．農地等の受贈者 |
|  |  住所 | 上高井郡小布施町大字○○××番地 |  氏名 | 小布施　次郎 |  職業 | 　会社員兼農業　 |  |
|  生年 月日 | 昭和平成 ○年○月○日 |  贈与者と の続柄 | 子 |  贈与時における贈与者 との同居・別居の別 | 同居・ 別居 |
|  農業に従 事してい た期間 |  　 農業関係学校の在学期間 ○ 年 （ ○○ 学校 ○○ 科　　昭和○○　年卒業）○○年 農業の専従・兼従期間 ○ 年 （自　　昭和○○ 年至　平成○○年　○月　○日） |
|  農地等の贈与を 受けた年月日 |  　平成○○ 年　○ 月　○ 日 （農地法の許可年月日 平成○○ 年　○ 月 ○ 日） |
|  特例の適用を受けよう とする農地等の明細 |  別表の とおり |  左の農地等による農 業経営の開始年月日 |   平成○○年 ○ 月　○ 日 |
|  身体若しくは精神の障害又は老人ホーム等への入所の有無 |  有　・　無 |
|  その他参考事項有 の方は、「別表２」の該当する障害等の番号に○を記載の上、障害等の状態を証明する書類を添付して下さい。 |
|  |
|  　上記の証明願のとおり、農地等の贈与者及び受贈者は、租税特別措置法施行令第40条の ６第１項（各号列記の部分を除く。）及び第５項各号に該当することを証明する。 　平成　　　年　　月　　日 小布施町農業委員会長　　　　　　　　　印 |
|
|  |  |  |

（説明・記載要領）

　贈与税の納税猶予に関する適格者証明書

　この証明書は、農地等の生前一括贈与を受けた人が、贈与税の納税猶予の特例の適用を受ける場合の贈与者及び受贈者が適格要件に該当する旨の証明書です。この証明書の交付を受けるためには、証明願の各欄に必要事項を記載して申請します。

１　証明願の手続

(1) この証明願は、贈与税の納税猶予の特例の適用を受けようとする人が、贈与により取得した農地及び採草放牧地の所在地の市町村の農業委員会に提出します。

(注)その市町村に農業委員会が設置されていない場合には、その農地等の所在地の市町村長に提出します。

(2) 証明願は、税務署提出用及び農業委員会控用として２部提出して下さい。

(3) 準農地についてこの特例の適用を受ける人は、その土地が準農地に該当する旨の市町村長の証明を受け、その証明書の写し１部を、この証明願に添付して下さい。

　なお、この証明願を提出する時までに、準農地の証明が受けられない場合には、準農地の証明書はあとから提出してさしつかえありません。

２　証明願の記載要領

(1) 「１　農地等の贈与者」欄

この欄は、この特例の適用を受ける人が、次により農地等の贈与者について該当する事項を記載します。

イ　「職業」欄は、贈与者の贈与時における職業を「専業農業」、「兼業農業」、「無職」などと記載し、農業以外の職業がある場合には、その職業について「○○販売業」、「○○農業協同組合勤務」などと具体的に記載します。

ロ　「農業を営んでいた期間」は、「農業開始の年月が正確に分からないときは、例えば昭和30年以前という程度の記載でさしつかえありません。

ハ　「贈与者が農業経営者でない場合」欄は、次により記載します。

(注)贈与者が農業経営者である場合には、この欄の「農業経営者の氏名」欄に斜線を引いてください。

(ｲ) 「農業経営者の氏名」欄は、特例の適用を受けようとする農地等の贈与時において、贈与者が農業経営者でない場合に、その農業経営者の氏名を記載します。

(ﾛ) 「農業経営者と贈与者との同居・別居の別」の「同居・別居」欄は、上記(ｲ)の農業経営者が贈与者と生計を同一にしている場合には「同居」を、贈与者と生計を別にしている場合には「別居」を、それぞれ○で囲みます。

(2) 「２　農地等の受贈者」欄

この欄は、この特例の適用を受ける農地等の受贈者について、次により該当する事項を記載します。

なお、農業委員会において受贈者が贈与者の推定相続人に該当すること及び農地等の贈与を受けた日において年齢が18歳以上であることを確認するため必要ですから、戸籍の謄本又は抄本を呈示してください。

イ　「職業」欄には、受贈者のこの書類を提出する際における職業を「専業農業」、「兼業農業」などと記載し、農業以外の職業がある場合には、その職業について「○○販売業」、「○○農業協同組合勤務」などと具体的に記載します。

ロ　「贈与時における贈与者との同居・別居の別」の「同居・別居」欄は、贈与者と生計を同一にしていた場合には「同居」を、贈与者と生計を別にしていた場合には「別居」を、それぞれ○で囲みます。

ハ　「農業に従事していた期間」欄は、受贈者が贈与の日まで引き続いて農業に専従又は兼従していた期間を記載します。この場合、農業関係学校に在学していた期間も通算されます。

ニ　「農地等の贈与を受けた年月日」欄は、原則として農地法第３条の許可年月日を記載します。ただし、贈与契約日において農地法第３条の許可後に贈与をする旨の特約が付されているときは、その特約により贈与を受けた日を記載します。

ホ　「身体若しくは精神の障害又は老人ホーム等への入所の有無」欄には、この特例を受けよ

うとする受贈者が、営農困難時貸付けの特例の要件を既に満たしている場合には「有」に○を記載し、併せて「別表２　障害等の状況についての申告書」の該当する障害等の番号に○を記載してください。

また、○を付けた障害等の状態を証明する書類（障害者手帳の写し、医師の診断書、施設との入所契約書等）を添付して「添付資料」欄に○を記載してください。

ヘ　「その他参考事項」欄には、「農地等の受贈者」欄の記載に関連し、必要な参考事項を記載します。

なお、この特例の適用を受けるために他の市町村の農業委員会にも証明願を提出する場合には、この欄にその旨及びその市町村に所在する特例の適用を受ける農地等の面積を記載してください。

(3) 別表１「特例適用農地等の明細書」

この明細書には、この特例の適用を受けようとする農地、採草放牧地又は準農地について、１筆ごとに、次によって記載します。

イ　「田、畑、採草放牧地又は準農地の別」欄には、特例の適用を受けようとする土地について、贈与を受けた日の現況に応じ、田、畑又は採草放牧地の順に記載します。

なお、参考のために準農地についても採草放牧地の次に記載して下さい。

ロ　「登記簿上の地目」欄は、登記簿上の地目を記載するほか、他人から借受けて農業の用に供している農地については、耕作権（採草放牧地の場合には賃借権）と記載します。

ハ　「所在場所」欄は、土地の登記簿上の表示に従って、地番まで記載します。

ニ　「市街化区域内外の別」の「内・外」欄は、特例の適用を受けようとする土地が都市計画法第７条第１項に規定する市街化区域内に所在する場合は「内」を、それ以外の区域の場合は「外」を、それぞれ○で囲んでください。

なお、租税特別措置法第70条の４第２項第３号のイ、ロ、ハに掲げる区域内に所在する農地又は、採草放牧地については、この特例の適用対象となる農地、採草放牧地である旨を証する市長等の証明書の写し一部を添付してください。

ホ　「※」印のついている欄は、記載する必要がありません。

(注)贈与者が、その所有する農地について農地法第32条の規定による通知（同条ただし書の規定による公告を含む。以下同じ。）を受けた場合における当該通知に係る農地は、特例の適用を受けることができませんので、明細書には記載しないで下さい。

また、「租税特別措置法（相続税法の特例関係）の取扱いについて」（昭和50年11月４日付け直資2-224、直審5-32、徴管2-65国税庁長官通達（以下「国税庁長官通達」という。））の記の70の４－７により贈与をした者を措置法第70条の４第１項に規定する「農業を営む個人」に該当するものとして取り扱う場合においては、国税庁長官通達の記の70の４－12の２により、贈与者が、独立行政法人農業者年金基金法（平成14年法律第127号）附則第６条第３項の規定によりなおその効力を有するものとされた農業者年金基金法（昭和45年法律第78号）の規定に基づく経営移譲年金（以下「経営移譲年金」という。）又は独立行政法人農業者年金基金法の規定に基づく特例付加年金（以下「特例付加年金」という。）の支給を受けるため、当該贈与の日前に、当該贈与者の親族に対し、その所有する農地につき農業経営を移譲していた場合において、当該親族が、当該農地について農地法第32条の規定による通知を受けた場合における当該通知に係る農地も、特例の適用を受けることができませんので、明細書には記載しないで下さい。

別表１　特例適用農地等の明細書

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  贈与税の納税猶 予の特例の適用 を受ける者 |  住　　所 | 上高井郡小布施町大字○○××番地 |  ※　３年毎の継続届出書の整理欄 |
|  １回目 ･ ･ |  ２回目 ･ ･ |  ３回目 ･ ･ |  ４回目 ･ ･ |
|  氏　　名 | 小布施　次郎 |
|  ５回目 ･ ･ |  ６回目 ･ ･ |  ７回目 ･ ･ |  ８回目 ･ ･ |
|  農地等の贈与を受けた年月日 | 平成 ○○年 ○月 ○日 |  |
|  特例適用農地等の明細猶予を受ける面積現況地目 |
|  番 号 |  田、畑、採草放牧地又は準農地の別 | 登記簿上の地目 | 所在場所 |  市街化 区域内 外の別 |  面積 (㎡) |  ※ 譲渡等、耕作の放棄又は買取りの申出等についての整理欄 |
| １ | 畑 | 畑 | 上高井郡小布施町大字○○字××　△△－△ |  内・外 | 1,000 | 1,500㎡の内 |
| ２ | 以下余白 |  |  |  内・外 |  | 持分や一部の適用の場合に記入して下さい。 |
| ３ |  |  |  |  内・外 |  |  |
| ４ |  |  |  |  内・外 |  |  |
| ５ |  |  |  |  内・外 |  |  |
| ６ |  |  |  |  内・外 |  |  |
| ７ |  |  |  |  内・外 |  |  |
| ８ |  |  |  |  内・外 |  |  |
| ９ |  |  |  |  内・外 |  |  |
| 10 |  |  |  |  内・外 |  |  |
| 11 |  |  |  |  内・外 |  |  |
| 12 |  |  |  |  内・外 |  |  |
| 13 |  |  |  |  内・外 |  |  |
| 14 |  |  |  |  内・外 |  |  |
| 15 |  |  |  |  内・外 |  |  |
| 16 |  |  |  |  内・外 |  |  |
|  合　　　計 |  |  |  | 1,000 |  |

別表２　障害等の状況についての申告書

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  番号 |  項　目 |  添付資料 |
|  １ |  精神障害者保健福祉手帳（１級）の交付を受けていること |  |
|  ２ |  身体障害者手帳（１級又は２級）の交付を受けていること 　手帳に記載された障害名（　　　　　　　　　　　　） |  |
|  ３ |  要介護認定（要介護状態区分５のもの）を受けていること |  |
|  ４　１から３以外の身体若しくは精神の障害の状況 |  |
|  (1) |  両眼の視力の和が0.1以下になっている |  |
|  (2) |  両眼の視野がそれぞれ10度以内で、かつ、両眼による視野についての 視能率による損失率が90％以上になっている |  |
|  (3) |  両耳の聴力レベルが90デシベル以上になっている |  |
|  (4) |  平衡機能に著しい障害がある |  |
|  (5) |  咀嚼又は言語の機能を廃している |  |
|  (6) |  咀嚼及び言語の機能に著しい障害がある |  |
|  (7) |  精神に著しい障害がある |  |
|  (8) |  神経系統の機能に著しい障害がある |  |
|  (9) |  胸腹部臓器の機能に著しい障害がある |  |
|  (10) |  上肢又は下肢の全部又は一部を喪失している |  |
|  (11) |  一上肢又は一下肢の機能を全廃している |  |
|  (12) |  一上肢の三大関節のうち、二関節の機能を廃している |  |
|  (13) |  両手の手指又は両足の足指の全部又は一部を喪失している |  |
|  (14) |  両手の母指、示指又は中指の機能を廃している |  |
|  (15) |  一手の母指及び示指の機能を廃している |  |
|  (16) |  母指又は示指を含めて一手の三指の機能を廃している |  |
|  (17) |  一下肢の三大関節のうち、二関節の機能を廃している |  |
|  (18) |  両足の足指の全部の機能を廃している |  |
|  (19) |  長管状骨に偽関節を残し、運動機能に著しい障害を残している |  |
|  (20) |  体幹の機能に座っていること、立ち上がること又は歩くことができな い程度の障害を有している |  |
|  (21) |  脊柱の機能に著しい障害を残している |  |
|  (22) |  (1)～(21)の他、身体の機能の障害若しくは病状又は精神の障害が重複している |  |
|  (23) |  満75歳以上であり、身体の機能が低下しており、農業に従事することが困難である |  |
|  ５　福祉施設への入所の状況 |  |
|  (1) |  生活保護法に規定する救護施設へ入所している |  |
|  (2) |  老人福祉法に規定する認知症対応型老人共同生活援助事業を行う住 居、養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、軽費老人ホーム又は有料 老人ホームへ入居又は入所している |  |
|  (3) |  介護老人保健施設又は介護療養型医療施設へ入所している |  |
|  (4) |  障害福祉サービス事業を行う施設又は障害者支援施設へ入所している |  |